

## 5 レタスビッグベイン病強度汚染ほ場で穫れる高収益品種

### はじめに

南淡路のレタス産地では、冬期に土壤伝染性ウイルス病害のレタスビッグベイン病が多発し、被害が増大している(図)。これまでに、太陽熱利用や薬剤を用いた土壤消毒、高畝や排水改善・早期マルチなどの耕種的防除で被害を軽減してきた。そのうち、耐病性品種の利用は最も取り組みやすい対策であるが、当初育成された「ロジック」は、汚染程度が強くなるにつれ、収量・品質が低下する。ここでは、更に耐病性が強い品種を選定し収益性が向上することを明らかにした。

### 耐病性品種の特性と収益性

南あわじ市阿万の現地ほ場において、2004年11月10日定植の最も被害の激しい厳寒期穫りの作型にて35品種を供試した(ここでは、主要品種のみ抜粋)。1月5日の結球初期では、慣行品種の「サントス2号」が62%、耐病性品種の「ロジック」が87%の高い発病株率を示す極めて強度な汚染程度であったが、「A409」は20%、「TE-236」、「A411」は36%と耐病性が優れた。球の肥大性は、「TE-243」が2L球の比率53%、「TE-236」が44%と優れた。秀品率は、「サントス2号」の85%に比べ、耐病性品種は40~60%とやや形状が乱れた。

これらの特性を総合的に評価するため、収益性を試算した(表の脚注参照)。その結果、「サントス2号」

号」の46.2万円に対し、「TE-236」では56.5万円、「A409」では56.1万円と約10万円高く、これらの品種が有望である(表)。

### 今後の方針

本内容は、厳寒期穫り作型の強度汚染ほ場での結果であり、個別農家の指導に当たっては、作型・ほ場の汚染程度に応じた品種の選定と各防除技術のメニュー化が重要である。

「ロジック」は81ha、「TE-236」は42haの面積で栽培されている。「A409」、「A411」は、(独)四国農業研究センターとの共同研究のため、今後現地試作を経て品種登録へと進める。

さらに、耐病性が強く、実用形質の優れる品種の選抜を継続する。

小林 尚司(淡路農技・農業部)

(問い合わせ先 電話:0799-42-4880)



図「サントス2号」の収穫期の発病被害状況

表 レタスビッグベイン病耐病性品種の特性

No. 品種名	耐病性の有無	発病株率(%)		地上重 (g/株)	球重 (g/株)	結球(cm)		規格別割合(%)				球の品質(%)			収穫株率 (%)	収益性* (千円/10a)
		1月6日	2月7日			縦	横	2L	L	M	S	秀	優	外		
1 サントス2号	罹病性	62	100	558	464	12.6	15.6	0	44	33	22	85	15	0	87	462
2 ロジック	耐病性	87	98	654	531	13.1	15.5	11	44	36	8	58	42	0	90	496
3 TE-236	耐病性	36	95	661	544	15.2	16.2	44	42	13	0	56	44	0	93	565
4 TE-243	耐病性	68	100	689	531	15.0	16.6	53	30	18	0	40	60	0	74	431
5 A409	耐病性	20	98	682	571	14.6	15.2	12	60	21	7	53	45	2	98	561
6 A411	耐病性	36	98	678	585	14.3	15.6	30	40	23	8	55	45	0	96	547

No.1はフジイ、No.2は横浜植木、No.3.4はタキイ、No.5.6は四国農研が育成  
播種日:2004年10月1日、定植日:11月10日、トンネル被覆:12月15日、収穫日:2005年2月22・23日

\*収益性の試算:Σ(各階級の球数\*単価)\*\*

(10a当たり)\*階級別の球数=栽植本数×規格別割合×収穫球の品質別比率×収穫株率

\*\*階級別レタス1玉の単価(円):2005年2月の市況の平均値から出荷経費を引いた値

	2L	L	M	S	A大	A小
秀	116	115	89	51	62	22
優	92	97	75	40		